

平成28年第12回教育委員会会議

平成28年10月5日

午前 9時29分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 ただいまから平成28年第12回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長 本日、国体推進課長が所用のため欠席となっております。

以上でございます。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○加藤教育総務課主幹 本日、傍聴の方はいらっしゃいません。

2 会議録の承認

○葛西教育長 それでは、さきにお渡ししております平成28年第8回の会議録について、何かございますか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 それでは、承認といたします。

3 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、杉浦委員と松崎委員とで行いたいと思いますが、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

4 議事

(1) 協議

1 平成28年度の教育委員会における点検及び評価について

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

まず、協議事項、平成28年度の教育委員会における点検及び評価について説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長 では、ご説明をさせていただきます。資料でございますが、今回の点検評価に関しては4つございます。

まず、平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に学識経験者の知見の活用を図るための実施計画（案）という資料、それから、第3次学校教育ビジョンの取り組み指標一覧表というのと、あとは問題解決能力向上のためのガイドブックの改訂についてとその抜粋というところで、後半2つの資料は教育支援課からご説明させていただきます。私は前半2つの資料をご説明させていただきます。

まず、平成28年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に学識経験者の知見の活用を図るための実施計画（案）というのをごらんいただければと思います。

もう既に、これまで続けておりますので、資料をかいつまんでご説明いたします。

まず、目的でございますが、地教法の規定の中で、教育に関する事務の点検及び評価、これは、教育委員会自体が教育委員の事務というところで整備されておるところでございます。また、それに続いて、学識経験の方の知見の活用というところ、そして、本市の学校評価のシステム全体の検証というか改善に資するためにこの点検評価を行うものでございます。

そこで、単元の2番でございますが、施策評価委員でございます。委員の委嘱として5名程度というところで、平成28年度につきましては、4名の方の委員の委嘱をお願いしたいと考えております。

そこで、昨年度から長谷川時三先生と大日方先生が代わられまして、新たに、草薙明先生と織田泰幸先生というところで、本年度はお願いしたいと考えております。

草薙先生につきましては、よくご存じの方も多数いらっしゃいますが、簡単にご紹介させていただきますと、昭和23年のお生まれでして現在67歳ということで、本市の指導課長や教育監を歴任されまして、平成21年に退職をされていらっしゃいます。その後、川越の教育長等を歴任していらっしゃるという方で、本市の教育にも非常にお詳しいというところで、今回委員としてお願いさせていただきました。

そして、織田先生は、昨年体調不良で大日方先生に代理いただいたところ、体調も戻り

まして、新たに織田先生というところでお願いをさせていただくところでございます。

そして、その下、役割でございますが、まず、学校視察等、学校関係施設を訪問していただき、教育施策の確認、それから市の教育施策全体につきまして、白書等を見ていただく中で専門的な助言をいただくというところでございます。

それから、教育委員会の指導方針、施策が学校現場に浸透して生かされているかどうか、きちっと教育委員会の方針と学校が連携しておるかについても検証をお願いするところでございます。また、私どもが、教育委員会が報告書をまとめるに当たりまして、その中で意見として提出いただくというものでございます。

2ページ目でございます。裏面めくっていただきまして、3番でございます。

実施計画（案）としまして、日程でございますが、本日、後でご説明いたします重点評価項目を決めていただきまして、その後、2回程度、教育現場を施策評価委員会の委員の皆さんに視察していただきます。その報告を入れながら、来年度5月、7月に協議を行いまして、白書、それから教育施策の点検・評価報告書というのを作成して、議会への報告等を行ってまいるというスケジュールでございます。

そして、それ以降、本市の評価項目につきましては、大変恐縮ではございますが、あとでこのあたり、前段のビジョンの取り組み施策の説明をした後に、評価項目をご審議いただくというところで、ちょっとここは一旦飛ばして、次の紙でございます。

ビジョンの進捗管理と評価というところをごらんいただければと思います。これは、ビジョンの13ページに載っているものでございますが、この点検評価のシステムにつきまして図示をしております。

まず、ビジョンがでございます。そして、各施策の評価、実施、取り組み、そして成果評価の子どもにつけたい力というところのチェックでございます。その後、アクション、見直しというところで、PDCAサイクルを回させていただいておるわけでございますが、ここに対して、下の囲みの網かけの部分、まず各施策の進捗管理というところで、取り組み指標を本日ご確認いただき、ご意見をいただくというところと、それから教育施策評価委員の知見活用というところ、この2つが施策評価の中で大きな役割を担っておるということでございます。

そして、別紙ですが、学校教育ビジョン取り組み指標一覧表、各施策の進捗管理につきまして、今回、案としてお示しをしております。

第3次学校教育ビジョンにおける各施策の達成状況の点検評価のための指標ということ

で、今回ビジョンにつきましては、子どもにつけたい力というところで成果指標のみを学校教育ビジョンに記載する、そして点検評価の中で取り組み指標に関しては別途、別出しの形で整理をさせていただきます。

そして、これの項目の点検評価が、また白書等へ反映していくということでございますが、この項目、全部で34項目ございますが、それぞれビジョンの基本目標の中の施策に対応したものとなっております。

そして、毎度、指標の位置づけというのがいろいろ難しい部分がございます。これまで、やはり指標の関連性であるとか、見やすさ、わかりやすさという点では種々ご意見をいただいたところでございますが、今回の指標の設定に当たりまして、ポイントとしては、まず、これまで学校の取り組みか教委の取り組みであるかというところがちょっとわかりにくいところもございましたので、そこは、教委の取り組みであるところを、まず点検評価の取り組み指標の進捗の管理は、教育委員会の施策に対する管理を明確にしようというところ。学校がやることではなくて、教育委員会の指標だということになるべく分かりやすくしようと思いました。

それから、色々なアンケート等の割合ということが過去にありまして、そういう主観に基づく部分がいかななものかというご意見もいただきましたので、そういう個人の主観に係る部分の指標については使わないという方向で検討させていただいたところでございます。

時間の関係がございますので、中身については見ていただくということで、説明については割愛をさせていただきたいと思いますが、そういう形の方針におきまして、まとめさせていただいた34項目でございます。

まず、こちらの取り組み指標についてご意見をいただいた後に、もう一度、重点評価項目をご説明させていただいた後、重点評価項目について決定いただくという進め方をお願いしたいと思います。

まず、ここまででご説明は一旦切らせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

**○葛西教育長** それでは、本年度の施策評価、重点項目、これは後で決めるということで、今までの説明の中で、今回取り組み指標については整理した形で出させていただいたわけですが、これらも含めましてご意見を頂戴いたしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○杉浦委員 ご説明いただいたとおり、まず、指標が成果指標で、かつ主体が教育委員会というところにしっかりと置かれたことや、主観的な結果で評価をしないというところ、非常に今までの議論の求めているものになっていて、非常にいいと思います。この軸をぶれずに検討いただいていたら、まず間違いないと思います。

○葛西教育長 ありがとうございます。

○渡邊委員 基準値と目標値というのは、5年で、例えば、1—①だと5を5年で25にすると、平均的にずっと直線的に伸ばしていくというイメージで良いのか。ただ、ICTの3回を5回にするとか、そこらの基準値に対して目標値の設定の程度というか、スピードといいますか、その考え方は、ばらつきがあるんだろうとは思いますが、どのように設定されたんですかね。

○長谷川教育総務課長 いわゆる現在やっている取り組みにつきまして、例えば継続という文字が出てくるところがございます。これは、例えば毎年度やっておところは必ず続けていくと、この取り組みは切らさずに毎年やっていく。

それから、伸ばしたい、特に1項目の研究開発校につきましては、各校それぞれ、広める、深めるというところで、そういう加速度的な上りの部分でございます。確かに記述の仕方の中では、今実施できておることを続けたいという部分と今できていないところをより高い位置に上げたいという部分とでは、もう少し記述の仕方に、例えば矢印とかであらわす等の工夫があってもいいのかなということを今思いましたので、見やすいような位置づけとしては、進めるのか、それとも保っていくのか、切らさないのか、そういうところの考え方を一定また整理し、最終案としてお示しできればなと思っております。

○渡邊委員 今、言葉で言われたことをこの中に入れ込むという考えでよろしいか。

○長谷川教育総務課長 そうですね。挑戦的にこれは政策的に進めたい、これは引き続き、今の状態を継続していきたい、そういうそれぞれの項目の狙いとか思いとか、そういうところももう少し見える化したほうが、より指標のわかりやすさが見えるのかなと思いました。

○杉浦委員 そうすると、年度ごとに目標値を定めるというようなことではないんですか。

○長谷川教育総務課長 取り組み指標を、毎年度を少しずつ見直していくのか、それともきちっと固めてしまうのかということも、今年度第3次学校教育ビジョンの開始からどのような指標、成果の管理、整合等の関係からということで、個人的には、ローリングという考え方でブラッシュアップというのがいいと思います。ただ、あまりやり過ぎます

と、今度は5年間、過去を見たときに、出来たか出来なかったかの評価といたしますか、総括がしにくくなるというのもあります。ただし、杉浦委員がおっしゃったような数値のところを見直していくのかということも、これからもう少し検討していく必要があるのかなというところがございます。

指標が固まっていることも大事ですし、できたところはさらに上げていくということも大事だと考えておりますので、この扱いについては今後、しっかり教委の中で議論して、よりわかりやすく成果が出るような指標の置き方が大事だと考えます。

○松崎委員 これは、前回、先にいただいていた指標の目標値よりも若干下がっている部分が多いかなという気がしたんですけども、やはり5年間を見てみて、もうちょっと下げたほうがいいかなという、その辺の根拠というのがありますか。

○長谷川教育総務課長 具体的にはどの指標ですか。

○松崎委員 全校となっていたのをちょっと減らしてみたりとか、100%だったのが、これは回数に、1—③、ICTのところですか、全校というのをやめる方向で書かれていますので、より具体的に数を考えてから上げたということですか。

○長谷川教育総務課長 60校と全校の表示が異なっておりましたので、それはこの場合、60校に統一させていただいたところがございます。全校という表示と何校という表示、そこは揃えさせていただいたところがございますので、おっしゃるように指標でございますので、できればもうちょっと前ということも確かにあるのかなと思います。

○松崎委員 あと、欲を持てば1—④の外国語活動・英語教育の充実のあたりの学校数を増やすとか、生徒の割合を増やす、これはいいなと思うんですけど、せっかく学力向上アクションプランにも英語は挙げられていますので、もう少し内容的に、具体的にこれぐらい英語の先生の実力が上がっているとかいうことがわかるといいかなと思います。先生の実力プラス、子どもたち、小学生でしたら小学生の英語の親しみ方なり、実力、学力がどこぐらいまで5年間で目指しているのかなというのが、もう少しわかる何か指標があればいいかなと思いました。

○渡邊委員 これ、先ほど課長が言われたのは、取り組み指標ですから、だから、教育委員会として、こういう目標でやってもらうんですということですよ。だから、教育委員会としてというのに、結果としての成果というものは、これは書けないということで、数になったんですよ。

○松崎委員 どちらかという、ハード面を上げるという感じなわけですか。

○長谷川教育総務課長 今、渡邊委員がおっしゃっていただいたような感覚、やはり学校の取り組みをここに書いてしまうと、進捗管理としては整理がしづらい部分がございます。ですから、要は教育委員会の働きかけで、何校そういうことをやっていただく学校が増えたかという表示に、学校がすることを書くんじゃないに、教委がやって、学校が何校増えたかというそういう記述にしました。1—④ですと、上の指標につきましては38校、これは小学校全部、それから下の指標ですとCAN—DOリストは中学校ですので、22校は全校ですね。全校という表示で統一させていただきます。これらは5年間で全部に広めるというのが1つの目標でございます。

その中で、今現在の指標としては、まだ取り組みとして指標値がないのと、それから2校というところですので、5年間でどう広げるかというところの持っていく方といいますか増やし方というのは、もう少し議論が必要かなと思いますし、今おっしゃっていただいたところで、例えばアクションプランでございますが、英語につきましてはアクションプランでも整理がございまして、その中では、学校の先生ですと準1級という数値もあろうかなと思いますが、それも学校の数値というところで、先生の能力の評価、これは教委の取り組み指標としては難しいのかなというところもありまして、今回整理させていただいたところでございます。

○吉田教育監 例えば、今の1—④のところなどは、第3次推進計画の中にアクションプランを反映させて、そして、教育現場で今、5、6年生の教科化、それから3、4年生に対する外国語活動の新たな導入が始まろうとしている中で、やっぱり英語をより専科でやってもらえる方を配置する。そういうことが施策として、教育委員会として、事務局としてはよいと判断して、1つ目は置かせていただいた経緯がございます。

それから、中学校は文部科学省が推奨しているCAN—DOリストという部分が非常に弱うございましたので、これをやっぱりきちっと設置して、より充実を図っていきたいということで、小中をそれぞれに1つずつやっていきたい。

私も、非常にわかりにくさがあったものですから、前回、第3次学校教育ビジョンの14ページには、子どもたちにつけたい力の成果指標ということで、これを知・徳・体というような形で整理させていただいた上で、そして、いわゆる取り組み指標という形で、先ほど渡邊委員からも補足いただきましたけれども、教育委員会施策の取り組み指標としての扱いという形で、私どもは今回、かなり明確に分けさせていただいたつもりです。

特に新規に設定した指標として、新規という言葉がありますが、大きな項目で言えば、

施策としては、10施策について11指標が新たに新規というような形でつけさせていた  
だきまして、こういうようなことも5年の間に見て、この指標どうかというようなことが  
あれば、前回のときも入れかえをして、実態に合わないというようなことがあった場合に、  
組みかえていく形も柔軟に取り入れてはどうか、というご意見もございましたので、そう  
いう形で今、これをとりあえず案としてお示しさせていただいたと、経緯がございます。

○葛西教育長 よろしいでしょうか。

○加藤委員 私も基本的にはほんとうに、主体が教委ということですっきり、いつも言い  
ますが、誰がというのが明確になったというので、ありがたいなと思っています。

ただ、今後、具体的に指標を評価していく上で、質的な面とか量的な面の判断基準をど  
うしていくかというのが微妙になると思うんですよね。例えば、1ページ目の1—①とか  
⑤の中で見てみても、例えば一番上の指定校数ときたら、これはもう客観的に何校って出  
ますから、指定校は何校ですから、これは質も量も関係なく、進んでしまう。ただし、例  
えばその次の授業研究を行った学校の割合、この授業研究も、1回なのか2回なのか3回  
なのか、どこまで深くやっているのか、とにかく授業研究しましたよという報告だけでマ  
ルとなるのかといういわゆる量的なものとか質的なもの、この判断基準がもう少し会議の評  
価指標としてやっぱり具体的にしていかないと、客観的にならないと思いますし、いよいよ  
その評価が生きないんですよね、実施したかしていないかという、マルかバツではなし  
に、結構三角の中に微妙なところで、あと教委が一押しというところもあろうかと思いま  
すので、まとめて言えば、量と質の判断基準をより明確にさせていただきたいなというこ  
とが1点と、もう一つは、やはり主体が教委になったということで、教委が何をしたか、何  
をするのか、そこをやっぱり明確にしないと、評価にあらわれないと思うんです。だから、  
この指標をもって、教委は今年度何をするとか、当面はこれをやるとか、あるいは結果を  
見るときには、教委がこれをしたからこうなった等、やっぱり主体がより明確になったこ  
とで出てくると思いますので、この指標は素晴らしいものだと思いますので、これが生  
きるためには、その2点は大事にさせていただくといいのかなと思いますね。

だから、例えば指導主事が学校訪問して、何々をした回数を1つの質とするとか量とす  
るとか、何かそんなようなものがないと、ずっと見ても、学級集団編制を工夫したけど、  
これもかなり質と量の問題は出てきますね。あるいは、その次のICTも、効果的な活用  
事例の紹介を行う研修会、まずこれ、どんな研修会というのということも、やっぱり質的  
に問われるところかと思いますので、そうしてみると、指定校数とか、下から2つ目の公



表した中学校となれば、実施したかしなかったでしょうけど、ほかは皆、若干、委員長がしたと言うたらもうマルになるんでしょうから、もう少し工夫、努力をしていただくとより効果的になるのかなと思います。

以上です。

○吉田教育監 まさしく加藤委員がおっしゃるとおりで、私どももそこまでやっていこうということで、初め示していったんですけども、そこへいくと、これが白書にも全部載っていく形になっていくもので、なかなか統一性がとれない部分がありまして、先ほどおっしゃっていただいたようなモデル指導案、これについても、実際にやったら、指導案をちゃんと送ってもらおうと、そしてそれをフィードバックできるように、いわゆるデータベース化するなどのことも今は考えていたり、それから、ICTの活用についても、これ、昨日もらって見ておったときに、市教委主催という言葉が抜けていますので、もうちょっとそれをちゃんと明確にして、各学校がいわゆるOJTというような形でやっていくんじゃないかと、そこら辺をはっきりさせないといけないというようなところも議論として出ていましたので、まだ案の段階でそういうご意見いただきながら、修正を図っていきたいと思います。

○加藤委員 より具体化することによって、次の打つ手が見えるということも明確にあります。ほんとうに素晴らしいことですよね。

○杉浦委員 指標ということが、今後いろいろなところに出たり、比較したりするときに出てくる表現になってきますので、指標は非常にシンプルでわかりやすいものでいいのではないかなと私は思っています。

ただ、今年、指標の注釈を入れていただいたりしていますので、例えば現場の先生が事項を照らし合わせたときに評価をするための基準というものは別途配付をするというような形で、詳しいところ、量も質も、こちらが求めているようなところでの評価をしていただけるようなものを注釈であったり別表で示していくというようなほうが、実際に評価される方も迷わずに的確にしていだけるのではないかなという、そういう工夫も要るのではないかと思いました。

あと、一番最後の段階で結構なんですけど、現状お示しいただいた指標のところを見ておきますと、表現を少し統一したほうがいいかなと思うところもあります。例えば、現在導入しているというような現在形になったり、導入したという過去形になったりする部分がありますので、例えばスクールカウンセラーですと、2―②になりますけど、カウンセラー

を配置する小学校数になると、今後、配置されるようなところも含まれる表現で捉えてしまえるのかなと思いますので、これは、1年を振り返ってということでしたら、できるだけ過去の表現ができるものは統一していったほうがいいかなと思いましたが、例えば3-①に関しても、学校の数を求めるような指標になっておりますが、指定校の指定校数になっていたり、最後が学校数で終わっていたりするので、例えば指定校に指定した学校数とか、やはり表現は、指標はすごく比較する場面が出てきますので、できるだけシンプルで、的確で統一というようなところを、最後をお願いをしたいなと思います。

○葛西教育長 じゃ、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。的確なご指摘をいただきましたので、どうぞよろしく願いいたします。

○長谷川教育総務課長 そうしましたら、資料の1ページ目の上段に戻っていただきまして、本年度の重点評価を行う項目の選定につきましてご意見賜りたいというところがございます。

3の(2)本年度の評価項目ということでございます。今年度は、第3次教育ビジョン初年度というところで、ビジョンの方針に特に重点を置くとか、それを踏まえながらの重点的な評価項目の選定の考え方を整理させていただいております。そして、学校視察等を行いまして、成果との検証ということでございますが、その方針というのは、その網がけでございます。1つは、連続性、系統性を重視した教育による滑らかな縦の接続を実現。それから、家庭、地域、関係機関等と連携した、地域とともにある学校づくりの推進、また、四日市の地域資源を生かしたふるさと四日市にふさわしい学びの実現という、このビジョンの方針を踏まえまして、今年度は進めさせていただきたいという思いもでございます。

そこで、下の項目として4つ、案として挙げさせていただいております。あくまで案でございますので、これ以外にもご発言、ご意見賜って、2項目程度選んでいただければと考えておりますが、まず1つ目は、ICTの活用というところで、提案理由につきましては、書いてございますが、ICTの活用は非常に重要な指導の手だてであり、現状、四日市で進めておるところもでございます。その中で、さらなる整備や拡充、それから施策展開の方向性についての検証というところでございますが、ICTにつきましては、アクションプランでも取り上げておりますが、空調は1つ目安として、方向性というのも見えておりますが、ICTの導入につきましては、なかなかそこまでの将来的な検討に至っていないという点、それから予算もでございますので、予算を待っているだけでいいのかとい

う点、今できる機械でどうICTの授業を深めていくかという、そういう視野も必要ではないかなというのもございます。今のICTの財産を十分に活用できているのかどうかについても検証して、今後、なかなか教育予算の拡充というところで、いろんな教育予算のほかへの項目もございますので、今あるICTの機器の活用も十分検討すべきではないかという意見もありまして、1つ項目として取り上げたらどうかという提案でございます。

それから、次は、少人数教育の効果的な活用というところで、実はアクティブラーニングの授業の展開の中で、少人数の効果的な活用について、30人編制の現状、少人数指導の実態の把握、その効果の検証というところで、四日市の1つの目玉でございます、小中の1年生30人というところの少人数クラスの成果の検証と、さらに少人数指導、いろいろ工夫を学校でしていただいておりますが、学校の要件もさまざまでございますので、このあたりしっかり取り組みにつつまして検証して、良いところはどんどん広げていくという、そういうことができないかというところで取り上げてございます。

それから、次、3項目は、学びの一体化、幼保小中の連携というところでございます。

平成18年度から、学びの一体化に取り組んでおります。1つは指導体制の一体化やキャリア教育の推進というところで、1つの大きな柱として、小学校への乗り入れ授業、それから、高学年における教科の担任制というところを進めてまいりましたが、10年たった今、幼保小中の連携、それからもう一つは、学力もさることながら、指導、特に生徒指導、それから不登校であるとか、そういういじめ等の連携というところ、そこも課題でございますので、そういう小中連携も見据えた学びの一体化というか、幼保小中の連携というところも十分に検証の必要があるのではないかという観点も踏まえて、今回、提案をさせていただきます。

それから、4つ目でございますが、四日市ならではの教育、博物館、環境未来館の活用でございます。

博物館、公害と環境未来館、これは、現在でも小中連携していただいております。その中で、さらなる小中連携、特に環境未来館との環境学習における連携という点では、まだまだ取り組みとしては、今後検討していく必要があるのではないかなというところもございます。その中で、そらんぼ四日市をどう生かすか、さらには四日市の資源をどう生かしていくかというところまで、議論を深めるというところから、4つ目というところで提案をさせていただきます。

今回は、一旦事務局案としましては、この4点をいかがかというところで提案させてい

ただいておりますが、またほかの案ということでございましたらご提案いただきまして、ご議論いただければと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○葛西教育長 昨年度は、重点項目を絞っていたと思いますが、何と何ですか。

○長谷川教育総務課長 昨年度につきましては、体力、それから問題解決能力の向上、ガイドブック等というところで、2点選んでいただきました。

○加藤委員 これは、質問にもなるんですけど、この4つの項目というのは、当然先ほどご説明いただいた教育ビジョンの取り組みの指標と関連がありますよね。直接はないんでしょうか。

○長谷川教育総務課長 考え方でございますが、今回の重点項目の私どものテーマと申しますか、事務局側の思いとしては、先取りと申しますか、今よりも一歩先へ進めたいという、四日市が売りにしたいという教育の中で、これまでやってきたことも踏まえて、より効果を上げるためにどこを直していくかというところで、より政策的というか、そういう点もございまして、取り組み指標から一歩踏み出しておる部分もございまして。

○加藤委員 例えば、私はある程度関連づけたほうがいいかなと思うんですけど、基本目標の1は、先ほどのご説明いただいた取り組み指標でいくと1―③のICT部分と関連するんですよね。実際に委員の皆さんが行かれて、これをどう見てくるかというところにもなってしまうので、ここに書かれた内容と指標とが若干離れていってしまうようなところもあるんですよね。

でも、こういう指標を挙げたということは、現場へ行って、これをどう結びつけてくるかという、まさに質と量の問題とか、教委が何をしていくかというところと関連づけたら、それはすごい成果になると思うんです。だから、指標との絡みで委員にどんな目で見ただかくかというのを、よりはっきりさせておくことによって、委員が個人的な尺度で物事を判断しないように、こういう視点で現場を見ていただいて、どうフィードバックいただくかというところが大事かなと思いますので、目標についてはどれでも私はいいと思うんですけど、この取り組み指標を関連づけて委員に見てもらおうと思うと、もう少し具体的な手だてが要るように思います。

○長谷川教育総務課長 まさに今おっしゃるように、指標の中で、確かにICTにつきましては、今ある機械をどう使いこなすかという点、それから、これから今後どういう機械を導入していくために、教委として頑張って予算をとっていくかという点、その2点があ

ろうかと思しますので、そこは、なかなか絞り込みというのは難しい部分もありますが、1つ指標から言うと、今ある機械をどこまで使いこなせるのという話は大きなところなのかなと、もし使いこなせないのであれば、それはなぜかというところも踏まえて。あとはよい事例をどう導入していくかというところがあるのかなと思います。

そういう施策評価といますか、PDCAサイクルをどこに回す、視点を置くのかというところも検討の材料で、今おっしゃっていただいたように、施策評価委員に何を検証していただくか、その効果をどうするのかというところはもう少し絞り込んで考える必要があると思います。今ですと、欲張って2つ、ICTで2つありますので、2つ見てくださいますか、それとも、現状の使い方を見るのであれば、効果的な使い方という点に絞って見てくださいますかというのかというのは、もう一度検討させていただきまして、評価委員ともご相談、当日の中でご議論させていただいて、そういうサイクルが正常に回る方向で、項目の位置づけの仕方を検討させていただきたいなと思っております。

○加藤委員 別立てで捉えたら、今課長がおっしゃられるようなことでもわかるんですけど、ある程度リンクさせると、今の具体的な内容と指標との関連が薄いような気もしてくるので、そのあたりどうしていくかですよね、どちらも大事なことやと思うんですが、例えば教育施策評価委員の皆さんにお願いすることは、今後、四日市がこうやっていく上でいろんな問題点なりビジョンを示してくと捉えれば、もうこれ1枚物でいってしまうんですし、ある程度、やっぱり事務局も、これも指標についても絡めたいと、あるいは具体的なものを専門的な目なり、大きな目で見ていただくというところもあるのであれば、やっぱり多少そのあたりも意識した提案をしていかないと、ぶれてしまうような気もします。

私は、後者のほうがいっそ良いのではないかと思います。これは、私の個人的な意見ですけど。

○杉浦委員 自分の中でも結論が出ているわけではないんですが、ただ、指標に関しては、例えば問題解決能力の向上のための授業づくりの施策に対する成果指標が2つあるわけですが、これが全てでは決してないですし、もっとたくさんものをしているわけで、たくさんある指標をみんな達成した結果、学力が向上しましたねという、本来はもっと違うところの目的に向けての成果指標で、全てをはかることはできないので、主だったものをピックアップしましょうというようなものが、先ほどの協議があった取り組み指標だと私は認識をしているので、そうすると、今会議の手元資料としてお示しいただいた本年度の評価項目として、第3次学校教育ビジョンの方針として大きな柱を3つお示しいただい

ているので、その柱ごとに実際に教育現場でどのようなことがなされているのかというようなことを視察する方向性も、大きく見られていいのかなと思います。

指標が細かく全てを出しているわけでは決してなくて、1つの指標という形で重要なものをピックアップしているということなので、あまりその指標だけにとらわれてしまうと、すごく狭い範囲での評価になってしまうようにも思います。

○松崎委員 実際、それぞれの指標に取り組むものは、各学校でもう始まっているんですか。

○長谷川教育総務課長 もう3次ビジョンは始まっておりますので、指標に当たるものは進めております。5年間やっていく中での指標、位置づけです。

○松崎委員 学校がもう一生懸命取り組んでいるのであれば、視察したときにそれぞれの目標がきちっと達成に向けて進められているのかというのがわかると思うんですけど、いきなり出されても、学校側も困るかなという気がしました。

それと、第3次学校教育ビジョン策定における方針に関しても、この3つをどこまで学校側が感じながら、それぞれの指標に向けて頑張っているのかということも、非常に難しいかなと、その辺の説明などは、先生方それぞれに現場に届いているのかなという気がします。上から、これ、やりなさいと言っただけで、ほんとうに先生方がしっかりと、評価委員の方々がごらんになったクラス以外のところにも届いているのかなというのはちょっと不安なんですけれど。

○渡邊委員 そのところで言うと、特に評価項目の3つ目の幼保小中の連携と、小中の連携なんかはある程度、取り組みはもう既に過去から始まっていますが、幼稚園、保育園というようなところと小学校とのつなぎというのは、あんまり今まで意識として浮かび上がってこなかったような気がしているんですけど、だから、それらをこういうふうに今年、基本目標の中で取り上げて、おそらく、先取りということを言われたものですからね。だから、5年間を通じて、やはりこういうところをしっかりと今度はやっていくんですよというようなことを、今までの取り組みは全く白紙に近いが、やるんだという決意を示して、ここからは今後ともずっと続けて、こういうのを掲げていくという、そういう意気込みなんですかね。だから、これは、非常に戸惑いがあるんじゃないかなと思うんですけど、どうですか。

○吉田教育監 幼保小中の連携の学びの一体化については以前から、幼保ということで進めてきておりますし、それから特に幼保ということで、就学前のことについては、子ども

の状況やその後、小学校、そして中学校、さらに高校、就職等あると思うんですけども、特に幼保と小学校の接続のところについては、四日市としてのスタートカリキュラムの連携を図るような形で実施しております。渡邊委員もよくおっしゃられるんですが、キャリア教育の重要性という部分で進めてきていますので、決してこれが今やっていないかということではないんですけども、現状を見ていただくということも1つあるかなとは思っています。

それから、中学校でしたら、そういう就学前のところでは職場体験学習じゃないですけども、そういうところへ行ったり、合同で文化祭とか、そういう取り組みのときに来てもらって、一緒に歌ったりとか一緒に走ったりとか、子どもは地域の宝というくくりで、お兄ちゃん、お姉ちゃんたちの姿を見たり、逆に年上の者は、子どもの接し方というのを学んで、より豊かな人間性につなげていくという形で、今、取り組みはそうやって進めさせていただいているつもりです。

○松崎委員 現状を見ていただくという形ですか。

○吉田教育監 現状を見ていただいた上で、施策としてもうちょっと進めたほうがいいんじゃないかとか、改善していけばいいんじゃないかということ、今までも評価委員の皆様から意見をいただいたり、そして最終的には、評価委員の皆様と教育委員の皆様と合同で、ここで懇談会をしていただいて反映していただいております。取り組み指標を明確にしたほうが良いのではないかなというご意見もいただきながら、改善に向けて進めてきていますので、そこで意見をいただきながら、こちらも柔軟に取り組んでいくということが大事かなと思っています。

○長谷川教育総務課長 先ほど松崎委員のご意見、今回お配りした資料の1ページ目でございます。実施計画(案)の一番下の、(2)の役割の項目②でございますが、その評価として、教育委員会の方針、施策が学校現場に浸透し生かしているかどうかの検証というところで、ここでも課題として、やはり教育現場、こういう視察に行きますと、どうしても先進的というか、上手にサイクルを回しているところを見て、ほかの学校はどうかというご心配をいただきました。その中で、どう教育を平等によくしていくかということも、やはりこれは教育委員会の大きな課題と認識しております。今、ある学校でやっている良い取り組みを、全市的に当たり前のものとして広げるかについても、しっかりご議論いただきながら、施策の展開について検討していくというのも1つですし、そのための点検評価というところもございますので、そのあたりはしっかり取り組んでいきたいと思ってお

りますので、よろしくお願いいたします。

○松崎委員 皆さん、どちらかという的を絞る、私、ちょっと広げるほうの発言で申しわけないんですが、年間2回と限られた視察ということもあって、欲張りかもしれませんが、個人的に今回ご提示いただいたところで、確かな学力と学校教育力の向上を見たいなと思っているんですけれども、その確かな学力の定着で、1つ目にはICTの切り口で、2つ目には少人数とかアクティブラーニングというような切り口ですが、中には1つ目と2つ目を両立している学校も、先進的なところというのではあるのではないかなと思います。ICTを活用したアクティブラーニングを少人数でやっているというようなところがあるのであれば、そういったところを見せていただけるとうれしいなと思ったんですが、四日市市内ではどうでしょうか。よく松阪市とか取り上げられていて、拝見しているんですけれども。

○葛西教育長 田中教育支援課長お願いします。

○田中教育支援課長 ICTを使ったアクティブラーニングは、日常の授業で実施できる学習環境が揃っているかという点で難しい状況です。今は、教育支援課の研究の課題として、中学校では、タブレット型パソコンがありませんので、小学校のタブレット型パソコンを持ち込んで理科の授業を実施したり、あるいは、小学校では、体育の授業の中で、タブレット型パソコンを活用し実践したり、という形で授業をしています。研究の指定を受けていない学校の日常の授業では、特に中学校では難しいと思っています。教育支援課から学校へ依頼し、学校でできることを毎年実践していただいている状況です。アクティブラーニングの中でICTを日常的に使っているかという点で、現在は、そこまで至っていない学校がほとんどです。

ですから、見ていただくとすると、今後この5年間で、どういう方向でICTの整備をしていけばいいのかという点で、ICT活用の環境整備の段階の検証かと思っています。今後5年間の見通しも含めて考えるのであれば、教育センターの指定校を見ていただくということが、一番分かりやすいと思います。観点によって見ていただくところは違ってくるかと思っています。

○廣瀬指導課長 タブレットは、支援課長申し上げたとおりだと思うんですけど、今ある電子黒板であるとかパソコンとプロジェクターを活用して少人数指導をしている学校はございます。新しい機器の導入という観点でなければ、活用の状況とかは見えていただけないかと思っています。



○加藤委員 現実、機器だけがひとり歩きするわけではないので、当然、授業の中に使われてこそ真価を発揮するものですから、程度の差があれば、1つ目と2つ目は広くとらえて、一緒にいけると思います。

絞り込むとしたら、1つ目、2つ目は1本にした方が良いと思います。また、博物館やそのあたりはプラスアルファで一回行ってもらったかどうか。プラネタリウムもこのように子どもには提供していますよという場面だけでも見ていただくとか、やっぱり指導者が足りないんですというところを訴えていただくとか、現場も見てもらうことが重要ではないでしょうか。実際、子どもが来て、活用してもらっている場面に出くわすとか良いでしょうけど、それはまた時間的なこともあると思います。4つとも全部みていただく、ただ、上の1、2番は一緒にされたらどうなんでしょうか。

先ほど、私は個別に指標を言いましたけど、大きく捉えたら基本目標1、確かな学力の定着という①から⑤までありますので、これもトータル的に意識して現場に入っていくという程度であれば、かなり関連もとれますし、いいのではないかなと思います。1個ずつ結びつくと確かに無理が生じますので、2つ目の学校教育力の向上というのは、基本的には大きな4番ですから、4―①から4―⑥まで、大きな目で現場へ行っていただければ良いのではないのでしょうか。指標についてもある程度意識をしていただけるのかなという気がしますので、そのようにしてもらったらどうですかね。

○葛西教育長 博物館と、それから四日市公害と環境未来館、実際に、例えば公害について学習する、そういう場면을教育委員にも僕は見ていただきたいと思いますし、それから、もし可能であれば、評価委員の人もそのときに教育懇談会というときに参加してもらおうという、そういうのは予算的には無理ですかね。

○長谷川教育総務課長 例えば協議の際にここでやるのか、それとも、例えばそらんぼどこかをお借りして、協議するとか、そういうやり方も、5月、7月のどっちか、例えば5月のときにとかに考えられます。回数を増やすとなかなかスケジュール的には難しいところがあるのかなと思います。5月及び7月に2回予定しておりますので、そこを上手に活用し、現場も見ていただければ幸いです。近いところでもありますので、日程調整ができて、授業が行われている場면을視察できれば、その後で協議というところが、非常に効率的に視察と協議を行っていただけるのかなということがございます。一度検討させてください。

○葛西教育長 特に四日市公害と環境未来館での体験的な授業というのは、昨年度、小学

校全校、それから本年度は中学校も入れて、やり出しましたので、ここについては、一度そういう様子を見ていただいて、今後どうしていくべきかという方向性みたいなものをやっぱり議論していただくということが、四日市の教育の特色をより充実させたものにしていくという観点では、私は大事ななと思っています。ですから、これは教育総務課長が話した形で、見させていただき、今後それらは、また継続的に見ていくということになろうかなと思います。

一方、基本目標1と基本目標4は、市として、この考え方である程度10年間積み上げてきました。第3次の学校教育ビジョンをつくる上でも、ここをしっかりと意識したものをつくっています。ですから、加藤委員にご指摘いただいたように、つくったものをさらに磨き上げていくという視点で評価をしていただくことが必要だと思います。現場を通して見ていく、どれだけ浸透しているのか、子どもの姿にどう反映されているのか、教師の指導力はどうかと、あるいは学校の教育力としてどうかといった点で、施策委員の方にも見ていただいて、しっかりやらなければならないこと、意識してやったほうがいいこと、そんなことを評価いただけるんじゃないかなと思います。

ですから、基本目標1、これを1つにし、基本目標4を1つにし、それから基本目標6については5月の機会に入れ込んでやっていくというスタンスでいかがでしょうか。

**○松崎委員** そうすると、基本目標6は、実際子どもたちがもう既に博物館、未来館で勉強をした後に、学校に戻ってそこでみんながまとめたり、発表したりという場を見てもらうという意味ではないのでしょうか。

**○長谷川教育総務課長** そのあたり、どう日程が組めるかというのもあるんですが、実際、地域資源としては1つ、そらんぼ四日市として博物館と環境未来館がございますので、その活用という点では、やはり視察の基本としては、そらんぼ四日市に行っていただくというのが基本なのかなと思います。もし日程が合わなくて、学校でということも、それも1つのセカンドオピニオンとは考えられるかなと思いますが、今教育長が申し上げたところは、まず教育資源の体現と、それを教育委員も、それから施策評価委員も共有した上での協議、懇談というところが1つ狙いかなというところで受けとめております。

以上です。

**○松崎委員** 今後の目標として、やはりこのあたりの学びはほんとうに充実したものをを見せていただいたり、体験をさせていただくというのは、親として一緒についていったりもしていますのでよくわかっているんですけど、その後、学校がどのようにまとめて、子ど

もたちに学習として、今後に生かしていくというところが一番大事だと思いますので、そのあたりを、次回でもいいので、しっかり見ていただきたいなと思います。

**○葛西教育長** 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進というのは、今回新たな基本目標となってきました。32年度までの間に着実に充実させていくことですので、今、松崎委員ご指摘いただいたように、一連の流れとして、どういうふうにも子どもたちが学んでいくのかということを見させていただくのもいいのかなと思いますので、それもぜひ続けてやっていきたいなと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、問題解決能力向上のためのガイドブックについての説明を教育支援課からお願いします。

**○田中教育支援課長** 教育支援課です。よろしくお願いします。

問題解決能力向上のためのガイドブックの改訂というレジメと、冊子をごらんください。

今まで、授業づくりのガイドブック（赤色の冊子）を作り、平成25年に配布しました。その後、指導課が中心になり、非常勤講師等にも理解をしていただく目的で、四日市プロセスの簡易版という形で、薄い冊子の抜粋版を出してきました。このように、浸透を図ってきたところです。従来の赤色の冊子は、ベースはできていますが、今後は、より具体的な形で読み砕き「ガイドブック2」という形で改訂します。具体的な読み換えも入れ、理解が進むようなものを出すために、昨年度から話を進めてきました。

レジメをご覧ください。点検評価報告の総括でも改善点を指摘いただきました。1つ目は、授業の目当てを示すこと、あるいは授業を作る思考過程が分かるような工夫をすることで、指導内容や指導方法、そして四日市モデルの授業手法について整理をし、それらをきちんと周知していくべきではないかという点です。

それから、2つ目は、データを集積した指導案の事例集を作成することで、具体的にプロセスや、あるいは授業モデルの提示に努める必要があるという点です。

そして、3つ目は、問題解決能力の向上で、本市の取り組みをいろんな形で発信していくことが大切ではないかということの、3点の総括をいただいております。

このことも踏まえて、問題解決能力の向上を進めることについて、四日市モデルの活用のポイントをさらに明確にして、それを実践事例という形で示すことによって、学校での取り組みを進めていきたいということです。

ガイドブックのポイントです。今まで赤い冊子は2部構成でした。そこで、別刷りの冊

子の抜粋を見ていただきますと、第1部は今までのとおり、5つのプロセスを解説しましたが、若干、語句の説明を分かり易い表現に直しました。そして、第2部を今回の改訂のポイントにさせていただきました。

1枚めくっていただきますと、第2部で、「授業に生かすためのポイント」を追加させていただきました。特に四日市のプロセスの中の重要な部分として、第2プロセス「問題の特徴づけと表現」で、子どもたち自身が問題の中身を理解する活動を、それから第5プロセスで、問題解決後、さらに「問題の熟考と発展」という形で、自分たちで新たな問題を発見したり、あるいはさらに解決についてより学びを深めたりすることです。この2つのプロセスが四日市の特徴という形で改めて入れていきたい。また、そのページの真ん中にあります、「ねらいとめあて」、あるいは「振り返り」という言葉について、どういうふうに解釈すればいいかということをもとめました。「ねらいとめあて」には、いろいろ解釈の違いもありますが、この冊子の中においては、「振り返り」はこういうことをしてください、とより具体的に示しました。

さらに、一番下の「課題と問題」ということについても、いろいろ解釈がありますので、この冊子の中では、それぞれの意味について、ここに記述したように考えていきたいと、より明確に考えやすくなるよう解説を入れました。

実践事例の書き方は、まだ指導案を並べたところですが、例えば冊子の2ページの小学校国語があります。具体的な実践を作成するという形で、光村の、「想像力のスイッチを入れよう」という題材を取り上げ、どのように授業が構成をされていくのか、どのような振り返りをし、どういうふうに授業を展開するのかなど、進め方やプロセスの利用の仕方がわかるような解説を入れていく形で改訂しています。

例えばダイダイ色で記述したところは、「授業者の頭の中をのぞくと」という形で、どのように考えているのか、第5プロセスとか第4プロセスについて、ここはどのように意識をし、授業をしたいと考えているのか、ということを書きました。さらに、力をつけるための「ねらい」が決まったらどういう仕掛けをするのか、その考え方を、順を追ってまとめた形です。

次に、次ページを見ていただきますと、8時間の指導を組み立てました。特に本時の内容は、3ページの下第6時（本時）に書いてあります。第3プロセスと第4プロセスに当たる本時案をこのように考えたという形で記述し、上部には板書の全体像で第3プロセスの考え方、第4プロセスはこういうポイントでやればという形のものを具体的に入れま

した。

5 ページは、事後の研修会の位置づけを書きました。ここは解説型で、文字数が多く読み取りづらいところがあり、さらに改訂をしていきたいと考えています。

このように、プロセスの考え方やねらいを定め、それをプロセスにどのように反映するかについて解説を入れました。ここを読むと校内研修でも工夫をしていただけるのではないかと考えています。

第3部は、まだ、6 ページだけです。具体的な教科、例えば理科や社会、学校によっては道徳もこのプロセスに従って実践している学校があります。それらの指導案でプロセスが明確にわかるようなものを実践事例という形で、掲載していきます。これからも、指定校で公開授業等をしますので、その実践の中で特徴的な指導案を取り上げていきたいと思っています。

周知の方法につきましては、授業公開や実践研究校の研修会、例えば、明日、富田中学校で公開授業がありますので、その中で周知していきます。県内等は、県の指導主事会や県内研究所の所長会等がございますので、それらの会議の場などで、四日市の特徴を理解していただき、市の取り組み周知していくこうと考えております。

冊子の改訂中ですので、年度末にでき上がりましたら、ご報告したいと思っています。今回は、中間報告という形で報告をさせていただきました。

以上です。

○葛西教育長 どうもありがとうございました。

何かご感想、あるいはご意見ございましたら、お願いいたします。

○加藤委員 特に思ったんですが、第3部のページの一番下の書きぶりなんですけど、教師が引っ張る授業か、子どもが主体的云々という表現がありますよね。6 ページ。これ、やっぱり教師が引っ張る授業がだめなので、子どもが主体的、協働的に行う授業がいいのかということではなく、やはり教師が適切な指導を行い、子どもが主体的、協働的に学ぶことができたかという表現のほうが良いと思います。やはり与えるべき知識はきちっと与えて、そしてそれを手段にして、主体的、協働的に解決を図りながら、また新たな知識を獲得するというステップじゃないと。授業の中では、先生が引っ張っていけないといけない場面もたくさんあると思うんです。

だから、教え込む授業も当然必要なので、教師が適切な指導を行うとか、そういう表現のほうが、引っ張る授業が全ていけないというのも私は変な誤解を受けると思いますし、

かつて、指導がだめで支援はいいと言っていたときには、教えるはいけないと、ひどい授業は課題までも子どもに見つけさすんだということで、右往左往して45分終わった授業が幾つかありました。例えば2ページもそうです。第1プロセスの一番初めに、この既存の知識を利用とありますよね、これ、大事です。これがなかったらステップ2へ進まないで、その既存の知識をきちっと習得させることも先生には必要ですし、そうなったときに、例えば第4プロセスあたりで振り返り、新しく知った知識や分かったことがどこかにないといけないと思います。その言葉を探したんですけど、発展的にいくことばかりで、わかったこと、振り返りという表現がないように思いましたので、ちょっと気をつけて編集していただくようにお願いします。

要は私が言いたいのは、やっぱり指導して、知識はちゃんと教えるべきところは教えなないと、幾らこういうプロセスをとったって、知識の新たな定着は望めません。四日市版のガイドブックというのは非常にいい部分だと思うんですけども、そこをより強調してもらおうと、また指導課から楽しい話を聞かせてもらおうんですけど、学力定着も図れるということになっていくのかなと思いましたが、あえて言わせていただきました。また課長にはその目で全体を見ていただきながら、決して知識を教えることがだめなんだという表現の部分はないようにしていただきたいという要望でございます。

○田中教育支援課長 その大切さの自覚はあります。改めてその点は確認をしたいと思っています。既存の知識から始めるということは、第1プロセス、第2プロセスでは、最初に押さえ、そして、プロセスの実践があるという方向にしたい。

○加藤委員 言うたら、小学校の学ぶことってみんな基礎なんですよ、教えてもらわないとできないことばかりで、どこから発展になるのかというのは難しいところだと思うので、指導がだめなんて言わないで指導してください。

○葛西教育長 次期の学習指導要領でも、知識・思考力は重要視されております。加藤委員からは、バランスよくそれらが獲得でき、獲得した知識を活用して新たなところへ進んでいくということを大事にしようと、そこを徹底して欲しいと言われておりますので、ぜひ、そういう意識をまず指導主事がしっかりと持って、自分の使う言葉1つ、書く言葉1つにも、そういう確かめをしていただけたらなと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、次にまいります。

## (2) 報告

### 1 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

次は、報告事項に入ります。

まずは、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について説明をお願いします。

じゃ、指導課長。

○廣瀬指導課長 指導課長の廣瀬でございます。

平成28年度の全国学力・学習状況調査についてのご報告をいたします。

しかしながら、まだ詳細な分析については途中でございますので、本日は結果の概要についてご報告をさせていただきます。各校の個別の状況も含めて、今後、分析や具体的な今後の指導方法については、11月に再度ご報告をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

資料につきましては、とじてあるものと、事前に送ることができなかった今後の取り組みの方向性みたいなもののプリントの2つでございます。1つはとじてあるものから先に、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果についてというタイトルでございます、グラフが掲載されているものをお願いいたします。

さきに本市の正答率については、速報で既にお伝えさせていただきましたが、資料には全国を100としたときの本市の5年間の経年の変化について、グラフで示させていただいております。ごらんのとおり、小学校につきましてもその記載どおり、国語B、算数A、Bにおいて初めて全国の平均を上回ったと、ここで示す100を超えているというのが3つの教科です。下回った国語Aにつきましても、昨年度、平均正答率でマイナス2.7ポイントであったものがマイナス0.4ポイントと、もうほとんど全国との差はないというぐらい大きく縮まってきています。

中学校においてはこれまでどおりですが、特に今回は、全教科において、全国、三重県の平均を上回っております。特に、グラフを見ていただくとおわかりのとおり、数学についてはかなり高い推移をしておりますので、本市の強みといってもいいのではないかと思っています。

今回、平成28年度の中学校3年生については、隣の左のグラフの小学生のグラフ、25年度の小学校6年生が中学校3年生であったということですが、小学校6年生時はあまり芳しくない結果ではございましたが、小学校6年生、中1、中2の3年間の伸びということでは、全国平均を上回っています。

これについては、このペーパーには書いてございませんが、小学校の算数において、主にTTや少人数の指導、または独自学級等で工夫された指導であったり、中1の30人学級の実施によって、児童生徒のきめ細かな指導が行えるようになって、学力の定着も図られたのではないかと考えています。また、先ほどの話題になっていましたICTの活用も、十分な機材は整ってはいないものの、活用の工夫等を進めて、わかりやすい授業の実現に努めた結果でもあるのかなと思っています。

また、本市における実効性のある取り組みということで、平成25年度に下にある丸4つのところを重点的に、過去問の活用というのは試験対策ではなくて、ふだんの授業や朝学習でワークシート等に計画的に取り組んで、先ほどの知識、技能の確実な、定着を図る取り組み、それから、学調の問題の趣旨をよく理解した授業改善、学習指導要領に基づいた授業の改善について努めた。それから、家庭学習の定着を図る取り組み、それから、春休みとか、学びの空白をつくらない、そういった取り組みを校内の意識統一しながら取り組んだ結果、そういったものの積み重ねが、ようやく力として定着してきたのではないかと考えています。

具体的に細かく書いてある、次の別紙1につきましては、今年、結果が結構伸びた学校の、小学校4校、中学校2校からの聞き取りの状況ですので、簡単に紹介をさせていただきます。

学調の過去問の活用については、過去の問題や県のワークシート等を10分間の朝学習や帰りの学習に取り組んだり、週末の家庭学習の課題に出したりしています。また、上の枠囲みの過去問の活用についての最後の行にございますが、授業で取り扱ったり、特徴のある問題を宿題にしたりというようなさまざまな工夫で活用していただいている、その具体が下の枠にまた出てくるわけですが、特に小学校では、これは小中とも課題なんです、国語についてまだまだ改善の余地があると考えています。特に小学校は書くというところが弱いところがあったので、今回、結果がよいと出た学校の中では、書く指導の徹底ということで、例えば点の2つ目、算数ノートの使い方を統一するとか、点の4つ目、国語の書く力を伸ばす単元では、自分の考えを常に持たせて、考えをまとめて書かせる取り組みを続けるとか、書くことに国語に限らずどの教科でも取り組んでいる、こういった書く指導の徹底を図ったところでございます。

それから、中学校においては、教職員の意思統一と、B問題を活用した授業を計画的に行う。どの授業においても自分の考えを持って主張し合える、思考判断・表現のところの



意識統一を図って、発問の工夫、設定を考えて授業に取り組んでいる。それから、関心、意欲、態度の向上、ふだんのテストにおいてもキャリア教育の観点から、やり切る態度と、このを徹底してやっていると、これはテストに限らず、全ての教育活動において、こういう指導の徹底を図っている。こういうことが、無回答を減らすことにもつながっているのではないかとのご報告。それから、班学習において、ホワイトボードを活用するなどして言語活動の充実を図った、こういうことに注力されているような取り組みとかの報告がありました。

裏のページは、家庭学習の連携ですが、家庭との連携と共通理解、まず、宿題の出し方について、上から3つ目の左側の枠の点ですが、宿題の出し方について全員で共通理解をするであるとか、高学年には宿題以外にも自主学習を位置づけるとか、低学年には主に復習を中心に進めて基礎の定着を図る、こういった考え方を学校として意識統一して宿題を出す、また、小中とも自主学習の充実ということで、自主学習ノートというのを中学校も小学校も取り組んでいる学校もございます。

朝学習、補充学習については、先ほどの最初の学調の過去問等の活用についてと同様でございます。

最後のページですが、学校全体で組織的に取り組むところについては、意識統一ということですが、左側の点の2つ目、小学校は特に、全員で問題を解いて、学年で取り組む、どの学年でどういったことに取り組むのかということについて共通理解を図って指導に位置づけてあるとか、3つ目の点、非常勤の先生も研修に参加できるような体制を整えるとか、または、点の4つ目の下ですが、ノートづくりの中に思考の過程を表現したりする力の指導方法について研究をしたり、点の5つ目、相談タイムとかを設定して、子どもに戻して考えさせる場面を位置づける、それから、最後から2つで、わからなさや困り感を中心とした学び合いの授業をつくるというような形で、言語活動を積極的に取り入れる工夫に学校として組織的に取り組んでいるというような取り組みがございます。

中学校も同様に取り組んでおるわけですが、中学校は特に、学びの一体化を意識したというような回答が寄せられています。中学校区でCRTや学調の情報交換を行って、弱み、強みを把握している、それから、学びの一体化の取り組みの2つ目ですが、中学校におけるキャリア教育、中学校では、進路指導がとても大事ですので、そのあたりを小学校に伝えていくというあたりのところで共通理解を図っている、それから、点の3つ目ですが、人権教育を中心に仲間づくりの取り組みが進む、こういった中で授業でも協働的、対話的

な場面が増えているというようなことがございました。

こういった取り組みの結果、次は全市的な学習状況についてのグラフです。学力テストの結果もさることながら、子どもたちの学習状況も右肩上がりになってきているということを示したものです。

まず、小学校の「国語の授業で、算数の授業で学習したことは、将来、社会に役に立つと思いますか」、社会人になっても通用する問題解決能力の養成ということですと取り組んできましたし、次の学習指導要領で示される、実社会と実生活のつながりを意識したというようなことを指導方針にもうたってございます。これについては徐々に、右肩上がりに進んでいるということが見ていただけだと思います。28年度においては、小学校算数・国語とも、全国の数値はここに書いてございませんが、肯定的回答、当てはまる、どちらかといえば当てはまる、例えば28年度国語で91%の子どもがそう回答しておるんですが、全国では89.2%ということになっていますので、これも上回っています。全て数値を入れてございませんので済みませんが、どのグラフも、左2つの肯定的回答の数値が今回上回るという結果になってございます。

次の下2つの、「国語、算数の授業内容はよくわかりますか」、理解の度合いとこれは関心、意欲にもかかわるとは思うんですが、こういった数値についても、例えば国語では、28年度で82.1%が当てはまる、どちらかといえば当てはまる、全国は80.7%ということで、これも数値を超えるような状況になってございます。

次のページは、ここから授業の改善の様子を少し読み取れると思うんですが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」、これは、26年度から設問が入ったものでございますが、28年度は当てはまるが20.3%、どちらかといえばというのが31.9%で、足すと52.2%、全国はこの2つの肯定的回答を足すと51.7%ということで、こちらも、自分で発表することは得意であるという児童も増えつつあるというところになっております。

また、次のグラフは、「友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」、学び合いということで、主体的、協働的な学習をこれまで進めてきましたが、こちらについても28年度、肯定的回答が84.8%、全国が83.4%ということで、全国を上回るような右肩上がりの改善状況になってございます。

最後2つは、次のところは書く、「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいですか」なので、そう思う、どちらかといえばそう思うが少ないほうがいい

いという評価になるわけですが、28年度を足すと54.3%になります。全国ではこの評価は54.8%というので、全国に比べて難しいと回答する子が少し減ってきたというようなことで、こちらも、先ほどの各指導の徹底等を図る学校も増えてきましたので、改善がなされている。それから、家庭学習の定着についてもかなり連携をとったり、学校での共通理解を図ったりというところで成果が出ているのかなというので、復習をしていますかという設問だけ取り上げてみましたが、肯定的回答が57.6%、全国としては55.2%というような結果で、抽出したものだけなんですけれども、いい状況のものだけとりましたけれども、大体こうやって学習状況も右肩上がりですと回答がされています。

次のページからは中学校ですけれども、中学校も同様な傾向で、こちらでも肯定的回答が全て全国値を上回るような結果が出ていますので、これまでに25年から特に教育課題検討会議の中でも話し合っ、全市的に取り組んできたことについて成果が出始めてきたのかなと思っております。

これについては、今年で終わってはいけませんので、2年、3年続くことで四日市の学力の定着と言えるのかなと思います。今後、取り組みについては分析して注力するところと、継続するところについて考えていきたいと思っています。

後から差し込んだワンペーパーでございますが、今後の指導課の取り組みでございますが、このデータにつきましては、9月の校長会で指導・連絡事項の中で説明はさせていただいておりますが、今後、調査問題の分析と課題解決に向けた具体的な事例について、分析をして紹介をしていく。特に国語の授業改善については、まだこれから取り組む余地があると思いますので、ここをどう切り込んでいくかということについて考えていきたいと思っています。

あと、児童生徒質問紙の分析結果、学校質問紙回答状況から、強み、弱みが、各校にあると思いますので、このあたりの成果と課題を抽出して、今後の取り組みについて示していきたいと思っています。

具体的に今決めていることは、学力向上の研修会については今回の分析を詳細にしたものについて、10月28日に小学校、11月7日と18日に中学校の数学、中学校の国語を計画しております。

また、3番ですが、指導主事の学校訪問という形で以下の4点について、各校の強み、弱みの分析であるとか、学校の研究テーマと学力向上の視点がうまくマッチしているのかとか、先ほどの主体的、協働的な学びを育む指導、ガイドブックの活用も含めて、こうい

ったことがされているのか、また30年度にまた理科の学調も来ますので、理科の授業改善のポイントが具体的にされているのか、こういった点について訪問をしていきたい。特にデータ上とか、また指導主事が訪問している中で、あまりうまくいっていない学校については、直接校長先生や教頭先生とお話しさせていただいて、改善の助言をしていきたいと思っています。

また、取りまとめたものはまた冊子として11月にご報告をさせていただきますし、ヒント・アンド・ポイントという形で去年も作成させていただきましたが、具体的な効果のある取り組みについて、できるだけわかりやすくまとめて、各教員に配布をして、授業改善の一助にしていきたいと考えています。

指導課から以上でございます。

○葛西教育長 どうもご苦労さまでした。

以前に速報をお配りしましたが、今回、地道なことですけれども、こういうことを各学校が粘り強く取り組み出して、そして、浸透してきたところについては一定の評価が出てきたと、この後3年ぐらいはしっかりと継続し、知力をしっかりつけていくと、それには先生方の授業の改善がやはり一番大事かなと思います。

教育委員会は教育委員会で施策を打っていくわけですけれども、現場の先生方が子どもを見て、どうすべきかということを考え、子どもたちの力を着実に伸ばしていく。そういうことをたゆみなく続けていくということが大事ですので、指導課が出す資料がそういうことに役立つ、あるいはそれを使って学校の持つ課題解決につながっていくのではないのでしょうか。そういうことを粘り強く、きめ細かくやっていきたいなと思っています。

また分析ができて、きちっとした資料が出ましたら、そのときにご議論をお願いしたいなと思いますので、今日はこの程度にとどめたいと思います。

## 2 平成28年8月定例会議の報告について

○葛西教育長 それでは、続いて、平成28年8月定例会議の報告について、説明をお願いします。

○栗田副教育長 それでは、説明をさせていただきます。

8月の定例会議、今日が最終日でございますので、一般質問、それから委員会の関係について、簡単にご報告をさせていただきます。

めくっていただきまして、まず、一般質問ですけれども、9人の議員さんからご質問を

いただきました。

まず、土井議員からは、地域で新しく住まわれた方も多く、もともと住んでいた方との間に色々な意思の疎通があると、例えばお祭りをやるにしても、もともと楽しい行事という地域の行事ですが、太鼓の音がうるさいと言われるようになり、いろいろ言う住民さんも多いという中で、そういうことについてどうなんでしょうか等、施設というのは保育園のことなんです、このごろ保育園ができることについて、周りで子どもの声がするとうるさいから嫌だというような住民さんもおる中で、そういうことについて教育の中ではどう考えますかというようなご質問でございました。それから、回答については見ていただいたとおりですので、特にご説明はいたしません、日永の名残の一本松の管理についてということで、ご質問をいただいております。

それから、藤田議員につきましては、教育課程特例制度を活用してグローバル教育の充実をというようなテーマで、特に教育課程特例制度を活用した英語教育の充実についてお尋ねをいただきました。

次に、樋口龍馬議員ですが、樋口議員は、優しさと譲り合い・イン・公共交通というようなテーマがついていまして、公共交通機関の中で、わりと席を譲らないとか、混んでいるのに席の横に荷物をどんと置いて座っていると、いろんなそういうことが目立つけど、そういうのをもっと道徳教育の中でやっていったらどうかというようなご質問をいただいております。

それから、加納議員につきましては、教育について3点ほどいただいております、1つは、テニスコート天国になる四日市というテーマがついておりました。今、テニスコートを、国体の関係もありまして整備しておりますけれども、整備するだけじゃなくて、整備した後、具体的な全国大会やプロのトーナメントの誘致等、そういう先の見込みはあるのかというようなご質問。

それからあと、観光元年から6年目ということで、観光元年と市長は言っているけど、どれぐらい本気度があるのかというご質問で、特に教育委員会としては、図書館や博物館の休館日について、せっかく市外から見に行ったのに月曜日に行ったら休みだったと、そういうことでいいんでしょうかといったことをお尋ねいただいております。

それから、次のページは、子どものネット依存の現状についてということで、今のネット依存の状況の、前にもそんなご質問をいただいているんですけども、そのことについての内容、それから、ポケモンGOについて、すごく流行っております、それについて

の教育委員会の考え方はどうかというようなご質問をいただきました。

それから、次に、伊藤修一議員ですが、これは、指導課や教育支援課あたりのところが対象になったんですが、特別な支援が必要な子どもたちへの支援についてということで、いろいろ細かいことを、施設のことや医療的ケアの子どもさんの状況について、あと、指導課や教育支援課両方にスクールソーシャルワーカーを置くべきではないかというご質問等、あとは予算措置についてはどうかというようなご質問をいただいております。

それから、次でございますが、中村議員につきましては、給食費の無償化ということで、保護者の皆さんからいただいている給食費を四日市は頑張って無償化して、皆さんが住みやすいまちということで、住んでいただけるようなまちにしたらどうかというようなご提案でございました。

それから、谷口議員さんは、食品ロスの現状と削減ということで、特に教育委員会に対しましては、給食の残菜、それから食べ残しとか、そういうものや、食育や環境教育についてどのようなことが行われているかというご質問でございました。

それから、次、平野議員につきましては、これは、世界にはばたくかけ橋をというような意味で、特に教育委員会につきましては、若い世代のスカイプを活用した国際交流の取り組みということで、スカイプをクラブ活動なんかで利用してみてもどうですかというようなご質問でございました。

それから、三木議員につきましては、朝明中学校の移転、建てかえについて、移転、建てかえはどういう考え方でなされているのかということで、それに対する地元の意見とか、そういうことをきちっと聞いてやっているんだろうかというご質問をいただきました。

それが一般質問の内容でございます。

それから、請願が4件ございまして、第1号から第4号までございます。

これは、見ていただいたとおりなんですけれども、今日、まだ本会議が午後からございまして、そこで請願の最終的な採択がされますが、教育民生常任委員会では全部採択をされております。中身はまたごらんください。

それから、決算常任委員会の教育民生分科会でございます。

これにつきましても、非常に項目が多岐にわたって、議員がいろんなご質問をされておりましたので、一個一個ご説明することはいたしません、教育委員会議についての状況について質問ができました。

特に、ここだけはちょっとご説明しますが、教育委員会議の内容ですけれども、例えば

議案とか報告とかいろいろ出ているけれども、そういう取り扱いでいいのかということや、教育委員の会議への出席はどうかとかのご質問が出たりしておりました。

それからあと、時間を結構割いたのが、いじめ、不登校の防止というような部分について、結構長いこと議論がされたのと、それからあと、教育環境課題の検討事業について、それから中学校給食、こういったあたりが特にお時間を割いて議論がなされたというところでございます。分野的には多岐にわたって出ておりますので、また資料をごらんをいただきたいと思います。

それから、次が、予算の常任委員会の補正予算でございます。これは25ページになります。

補正予算につきましては、今回、中央緑地運動施設の整備事業ということで挙げさせていただきまして、これについては、あまり議論はなされませんでした、ごらんいただいたとおりでございます。これは国体関係の補正予算でございます。

それからあと、付託議案というのがございまして、これは条例改正が一部ございました。これにつきましては、26ページ、27ページでございますが、これは、中央緑地の野球場を廃止することに伴う関係規定の整理の条例の改正でしたが、特にご質疑はございませんでした。

それから、次のページをめくっていただきまして、28ページからですが、協議会を2本ほど挙げさせていただいております。朝明中学校移転建替基本構想の策定と第3次四日市スポーツ推進基本計画の素案ということで、2本出させていただいております。

朝明中学校の移転につきましては、一般質問では出ておりますし、教育民生常任委員会の分科会でも質問が出ておりますし、ずっと質問が出ておりますので、協議会でご説明している段につきましても、また同じような議論がなされておりますが、教育委員会としましては、この建替基本構想の中間報告ということで、大体の枠組みを示させていただきました。

それからあと、29年度から5年間になりますけれども、第3次四日市市スポーツ推進基本計画、これにつきましては、30ページでございますが、今度、それを策定しておりますがそのまた中間報告でございます。これも枠組みについて、こういう方向性でやらせていただきたいということでご説明をさせていただきまして、それに対して樋口龍馬議員から若干質問が出ておりましたが、まだ中間報告ということでしたので、ご質疑も比較的少なかったと考えております。

以上でございます。

○葛西教育長 8月議会は決算議会ということで、27年度の実績、その課題について議論がなされるという位置づけでございました。

また、第3次四日市市スポーツ推進基本計画、素案を提出させていただきましたけれども、事前にこの場でかなり議論していただいご指摘もいただいたと、その分を直して、この協議会にかけさせていただきました。議員さんからは、見てわかりやすいという、そういう評価だったと思っております。今後、これもまた11月議会を出していきますので、教育委員会の考えているものにつきましては、またこの場でも議論していただくということになりますので、引き続きどうぞよろしくお願いしたいと思います。

何かご質問ございましたら、よろしいでしょうか。

○加藤委員 朝明中というか、大矢知の問題は、議会全体的にはでどんな感触を受けていただいておりますか。

○栗田副教育長 今のところは、基本構想を策定して、それを見ていただくというのが大筋なんですけれども、一部議員さんからは、附帯決議で八郷地区の皆さんに丁寧に説明をしながら、ご理解をいただきながら進めとなっておりますが、現実のところは全然ご理解をいただいていないという意見も頂戴しております。教育委員会としましては、全体としてもう少し状況を待っていただいて、基本構想の中でお示ししたいとお伝えしております。

以上です。

○加藤委員 関心を持っていただかないと困りますが、どういう方向になるのでしょうか。

○栗田副教育長 今、様子見という感じの議員さんが多いかなと思っております。

○葛西教育長 よろしいでしょうか。

## 5 閉会

○葛西教育長 それでは、次回のことについて、教育総務課長から説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長 次回は教育懇談会ということでございます。10月12日水曜日、来週でございますが、集合時間が8時半でございますので、それだけお気をつけいただければと思います。場所は笹川東小学校、笹川西小学校、両校を訪ねまして、新しい学校づくり、それから日本人、外国人が高め合う学校づくりというところで両校の視察、それから、最後に給食というところまで考えてございますので、どうぞよろしくお願いいたします。



す。

以上です。

○葛西教育長 それでは、以上をもちまして教育委員会会議を閉会いたします。どうもご苦勞さまでございました。

午前11時21分 閉会